

Freedom



高校生の人権広報誌

“Freedom”第19号

2015年10月11日発行

編集 “Freedom” (フリーダム) 編集スタッフ

発行 奈良県高等学校人権教育研究会

毎月11日は「人権を確かめあう日」

東日本大震災、原発事故、豪雨等により被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。

今年度の編集スタッフは、香芝高校、奈良情報商業高校、奈良大附属高校、西の京高校の4校14名が集まりました。今回は、昨年度3学期以降の活動レポートが中心です。夏休みの活動紹介は次号で！投稿お待ちしております。スタッフ希望者も引き続き募集中です！！



盲導犬訓練所を見学して

香芝高校 ハートフルクラブ

私たちハートフルクラブは、二〇一四年十二月十四日に大阪府南河内郡千早赤阪村にある社会福祉法人日本ライトハウス盲導犬訓練所へ見学に行きました。日本ライトハウスでは、「自立と社会参加のためのパートナーシップ」の理念のもと、盲導犬の育成を行っています。訓練所までは山道を通り、着いたときの印象としては人里から離れている場所にあると感じました。同時に、そのことで犬にとっても訓練に集中しやすい環境なのかなとも思いました。

訪れたときは施設の開放日で、盲導犬の説明会には各地から二十人以上の人たちが見学に来ていました。説明会では、視覚障害者の方々が普段どのようなに過ごしているのか、また町で出会ったときにどうやって手助けをしたらよいか、など盲導犬以外の説明も交えながらお話を聞かせてもらいました。

さて、盲導犬の育成については、子犬が盲導犬になるまでに、まずパピーウォーカーと呼ばれるボランティアの家庭に預けられます。そこで、一歳になるまで育てられ、色々な経験を積みま

す。一歳になると訓練所に戻り盲導犬に向けて



いるかどうかを評価します。長時間待つことができないなど盲導犬としては向いていないこともあり、生まれつきの性格だと訓練で変えることはとても難しいので、そんな犬たちはキャリアチェンジ犬として別の仕事をしたり、ボランティアの人々にペットとして迎えてもらったりします。実際訪れた訓練所でもキャリアチェンジ犬が、施設のデモ犬として働いていました。盲導犬に向いている犬は訓練を受け、訓練を終えた犬は新しいパートナーと出会います。盲導犬を取得する人は、約一ヶ月間訓練所で生活をし、歩き方や世話の仕方を学びます。実際僕たちが訪れたときも、一人の方がこの施設で共同訓練を行っていると聞きました。共同訓練終了後は、やっと盲導犬としてのスタートラインに立ちます。それから約十年間パートナーとともに過ごしていきます。そして、十歳〜十二歳になると盲導犬としての責務を終え、引退します。引退後は、引退犬ボランティアのご家庭でのんびりと過ごします。

現在全国には十一法人の盲導犬訓練施設があり、約千十頭(二〇一四年現在)の盲導犬が活躍しています。しかし、盲導犬はまだ普及が進んでおらず、希望しても取得できない人もいるのが現状です。盲導犬の希望者は全国に四千〜五千人いるといわれています。明らかに盲導犬の数が足りません。

盲導犬を一頭育てるのに約六十万円かかります。これらの費用は、二割ほどは行政の補助金が出ていますが、残り八割は寄付でまかなっている状況です。



今回盲導犬訓練所を見学して話を聞き、盲導犬事業は、施設の職員やたくさんのボランティアで成り立っていると感じました。ただ、今のままではどうして盲導犬を希望している人のすべてがパートナーと出会うことはできません。だから、盲導犬事業の実態と大変さを世の中の人たちに伝えることで、少しでもその助けになりたいと今回の見学を通じて強く思いました。

さらに盲導犬は、視覚障害者を安全に誘導するだけでなく、心の支えになるパートナーだとも思いました。盲導犬の存在によって視覚障害者は行動の自由と心の絆を得ることができ、二〇一二年十月には「身体障害者補助犬法」が施行され、さまざまな場所で盲導犬が受け入れられるように義務づけられています。しかし、今でも施設等の利用を拒否されるケースが多いのが現状です。もし、身近でそういう人たちが困っていたら知らないふりをせずに助けてあげてください。一日でも早く盲導犬が社会に受け入れられることを祈っています。

(香芝高校 松本 賢太) 常盤 健太

高解研 研修・交流会 参加体験記

私は、六月十四日(日)に桜井市中央公民館で行われた、二〇一五年度第一回高解研・研修交流会に参加しました。昨年度に行われた前回の高解研にも参加しましたが、午前中に検定試験があったので、途中参加でした。しかし今回はすべてのプログラムに参加できるのですごく楽しみな気持ちで参加しました。

今回の研修内容は「ヘイトスピーチ」に関しての内容でした。「ヘイトスピーチ」とは「特定の立場にある集団や個人に対して、差別や憎悪を煽(あお)る表現をするもの」です。近年、街頭で外国人などに対する差別発言を集団で行う様子がテレビのニュース番組などで報じられています。

研修し終わった時の私の感想は、純粹に悲しい気持ちになりました。どうして、同じ人間なのに、憎悪や敵意をむき出しにしてあそこまで酷い暴言を浴びせる必要があるのか？ 暴言などを浴びせる人々は何を思い、何を根拠に酷い暴言を使うのか不思議でした。そしてヘイトスピーチに関してのVTRを見て一番衝撃だったことは、平日で普通に授業をしている京都朝鮮初級学校にむかって大声で暴言を浴びせるシーンでした。なぜ時間帯なども気にせずにあのような行動ができるのか理解ができなくて、意見交換などの時はずっと考

(二面に続く)

こんにちは。深雪です。今回は『あれから70年、あの時を忘れない』と題し、戦争をテーマにして綴りたいと思います。

今年に入ってから、戦争の話題がよく特集されています。戦争を体験したことのない私たちが戦争について知る方法は、テレビ報道や広島・長崎・沖縄などにある戦争資料館。近隣では大阪国際平和センター、通称「ピースおおさか」にある展示物などに限定されてしまいます。70年という歳月は、戦争を体験された方々の高齢化や減少に伴い、戦争の恐ろしさや醜さを再確認するには難しいものとなりつつあります。戦時中、私たちと同じ年齢の人たちは生死の狭間で生きておられました。ある人は「特攻隊員」として命を散らせ、ある人

は軍需工場で兵器を作るなど、私たちが今謳歌する青春とは大きくかけ離れた時を過ごされていました。

それらの映像や文面だけでは知ることの出来ない当時の人々の思いを、次の世代の人々に伝えることが、今を生きる私たちがすべきことだと思います。そのために色々な機会に当時を知る方々の話を聞くことで、現代社会の平和について私たち高校生の関心が向けられることを私は願います。

今回はここまでです。御清覧有り難う御座いました。

注) ピースおおさか…大阪空襲の展示がメインの戦争資料館。

えていましたが、答えがでなかったので答えが出るまで考えてみようと思いましたが、同じ人間として少し恥ずかしいとも思いました。

次に、先生を含め約七から八人のグループで調理実習をしました。

この日の献立は、ピビンパとスープでした。一時間程度ですべてのグループが調理を終えました。私たちの班のピビンパは具の量が多く、味も結構

休憩が終わりに最後に意見交換をしました。意見交換は、他校の色々な活動内容などを聞いてとても参考になった部分が沢山ありました。その参考になった意見を自分の学校に少しでも反映出来たらいいなと思ったのと、本当に人権に対して色々な活動がありすぎないかと思いました。

最後に、この研修交流会を通して、私はまだまだ沢山知らないことがあり、交流会に参加することはとても勉強になると思いました。今私は高校三年生なので参加出来る回数は限られていますが、できるだけ参加し勉強させていきたいと思っています。

(奈良情報商業高校 今井 紗弥)

※「高解研」は奈良県高等学校解放研等連絡会議の略称です。当日は七校から二十二名の参加がありました。



『AYUMI』 半日ボランティア体験記

二〇一四年十二月十三日に奈良大学附属高等学校生徒会役員を含む十数名で、社会福祉法人あゆみの会『オープンスペース AYUMI』を訪れました。当日はメンバー全員で施設におられる方との交流を兼ねて、施設周辺の清掃活動のボランティアを行いました。その時の模様を伝えると共に、感想を述べたいと思います。

私は生徒会からの誘いを受け、また、そこには「新しい出会いがあるかもしれない」という思いから参加することを決心しました。そして、その出逢いを待ちわびる私がいまいました。

私たちはまず控室に通されて、施設のスタッフの方から今回のボランティアについて説明を受けました。さらに「ここにいるのは『知的障害』のある人達で、皆さんと違うのは、いろいろな物事が頭に入る速度が違うところです。なので、ゆっくり関わってあげてください。」というアドバイスを受けました。それを聞いた私は、今まで持っていた『知的障害』という認識が違ったのではないかと思いました。それまで私は、『知的障害』のある方は物事のとらえ方が私たちと違うのだらうと思込んでいたからです。

そうこうするうちに、交流の時間となりました。施設の皆さんが集まる広間で軽く自己紹介をして班分けをした後、作業を行うことになりました。午前中は草抜き、ゴミ拾い、段ボール運び、室内清掃の四つからジャンケンで決めることになりました。「最初はグー、ジャンケンポン……」皆ドキドキしながらその様子を見ていまし

た。

私たちの班はゴミ拾いになり、いざ外に出てみると十二月の風は寒い！皆が集まったの第一声が「寒っ」だったので、ちよつと笑ってしまいました。私たちの分担になった場所は、施設近くの農業用水の池を周回する道路で、各々が大きなゴミを見つけると「これは大物だ」「すごい」と皆で歓声をあげて盛り上がりました。

その後、AYUMIに戻って腕時計を見たらビックリ。あつという間に一時間も経ってしまいました。

今回の交流ボランティアは、あつという間に時間が過ぎ、時間を忘れてしまうものでした。また、施設の皆さんは、挨拶をするときと直ぐに返事を返してくれる温かい方たちで、そんな方たちと出逢い、ともに活動したことは私にとつて有意義であったとともに、知らなかった世界に触れる貴重な機会となりました。また、このような機会をいただけるのであれば、是非参加したいと考えています。

(奈良大学附属高校 吉村 拓紀)

高校生の人権広報誌 "Freedom" 第19号 (2015年10月11日発行) 発行 奈良県高等学校人権教育研究会 〒630-8133 奈良市大安寺 1-23-1 奈良県人権センター内 TEL 0742 (62) 5555 FAX 0742 (62) 5568 E-mail kodokyo@kcn.ne.jp HP http://www1.kcn.ne.jp/~kodokyo/ ※ご意見・ご感想や投稿などは、各校人権教育担当の先生または上記までお寄せください。 ※本誌のバックナンバーは、高入教ホームページの「活動報告」にて閲覧できます。(「高入教」で検索してください) ※本誌の発行は奈良県教育委員会の事業委託を受けています。